

## 社会科学習指導案（地理的分野）

### 1 単元名 地域の規模に応じた調査「身近な地域を調べよう」

### 2 単元とその指導について

本単元は、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法の基礎を身に付けることがねらいであり、その題材として「身近な地域」を扱う。身近な地域の学習では、生徒にとって直接経験地域である通学区や市町村規模の範囲を対象として作業的・体験的学習に取り組ませる。そして、そのことを通して自分が生活している地域に対する理解と関心を深め、地理的な見方や考え方の基礎を育てることをねらいとしている。

平成17年10月、大和町は佐賀市や周辺の町村と合併し、佐賀市になった。平成19年10月には、更に佐賀郡3町が合併することに伴い、新しい佐賀市が誕生した。広域化が進む佐賀市についても触れる必要があると思われるが、本単元では生徒の直接経験地域である大和町内を主な学習対象地域とする。

佐賀市大和町は、もともと農業地域として果樹や米を栽培する農村地域であったが、近年、旧佐賀郡の町村の中でも人口が急増し、旧佐賀市との結び付きが強くなっている。これは大和町に設置された長崎自動車道のインターチェンジや環状道路の整備が進んだことによって交通アクセスが便利になったことによる。その結果として、交通量も増加し、1990年代から郊外に住宅地の造成や各種大型商業施設の進出といった経済面の効果を及ぼしている。主な商業地として平成12年9月には、大和町南部に「イオンショッピングタウン佐賀大和」が開業し、多くの人が利用する一方、地元の尼寺商店街では店舗の閉鎖や撤退が続き、厳しい経営を強いられている。

本学級の生徒は、討論型の授業を小学校の時に数名経験している。また、1学期に歴史的分野で「自分が住むなら、縄文時代か弥生時代か」というテーマで教科書又は資料集に記載してあることを根拠に自分の意見を発言したり、他の生徒と意見交換することを経験している。しかし、本格的な討論型の授業、資料と自分の考えを結び付けて説得力のある主張をつくったり、お互いの主張や反論、再反論をぶつけ合ったりするような討論型の授業は初めてであると言える。

指導に当たっては、身近な地域の課題を意識させるために、『大和中学校校区内に「大和ジャスコ」の他にもう1つ大型商業施設をつくるべきである。』という論題を設定する。

まず、大和中学校校区内にもう1つ大型店舗をつくることの必要性、問題点などについて資料データを基に考えさせる。その後、立場を決めた上でつくる派とつくらぬ派に分かれてそれぞれの主張を考える。主張をつくる際の手立てとして、トールミン・モデルをもとに図式化した「データ」「理由付け」「結論」の3つの枠に当てはめたワークシートを使用する。討論のときは、対立した議論の構造を視覚的にとらえ、獲得した情報を視覚化して吟味し、整理する。その後、それらを結び付けて文章化する活動を組み込むことで、判断理由を明確にさせることを検証したい。身近な地域の課題を通して、様々な視点や立場からの考えを出し合い、最終的に社会の一員としての判断を行わせたい。また、この単元の最後に生徒が振り返りをする時間を取り、2枚のワークシートを見比べることで自分の視野が広がったことを実感させ、自分の中で討論の価値付けをさせたいと考えている。

### 3 単元の指導目標

- (1) 佐賀市大和町の特色をとらえるために、様々な資料の読み取りや資料作成、調査活動に意欲的に取り組もうとする。
- (2) 佐賀市大和町の地理的事象を基にして設定した課題を、地域の環境条件や他地域との結び付きと関連付けて多面的・多角的に追究することで、地域的特色を考察する。
- (3) 各種の資料を読み取り、解釈し、そこから自分の考えを構築して自分の主張を作成する技術を身に付ける。
- (4) 佐賀市大和町の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方などを理解し、それらの知識を身に付ける。

4 単元の評価規準

	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	ア 佐賀市大和町の地理的事象に関心を持ち、意欲的に作業的学習や調査活動に取り組んでいる。	イ 佐賀市大和町についての課題を意識し、それを環境条件や他地域との結び付きから考察することができる。	ウ 各種の資料を読み取り、解釈し、そこから自分の考えを構築して自分の主張を作成することができる。	エ 佐賀市大和町の地域的特色をとらえる視点や方法、地理的なまとめ方を理解し、その知識を身に付けている。
学習活動における具体的な評価規準 (表記はB基準) 【評価方法】 〔場面〕	クイズや景観写真について答えたり、質問している。更に深い興味を示している。 【発言内容】〔1/8〕 立場を決め、それぞれの立場の主張作成に取り組んでいる。 【ワークシート】〔5~6/8〕 【行動観察】〔5~6/8〕	必要性、問題点などを考察し、どちらの立場を取るのか判断理由を明確にして文章に表すことができる。 【ワークシート】〔4/8〕 これまでの学習や教師の与えた資料から立論や反論、再反論を考えることができる。 【ワークシート】〔5~6/8〕 獲得した情報を視覚化して吟味し、整理をすることができる。 【ワークシート】〔7/8〕 判断した理由の中に、反証を入れたり具体的な例を挙げたりしながら文章に表すことができる。 【ワークシート】〔8/8〕	地形図から土地利用の様子を読み取ることができる。 【ワークシート】〔2~3/8〕 佐賀市の課題を見出すために、資料を読み取り、正確に分析している。 【ワークシート】〔4/8〕 資料の分析を基に、自分たちの主張をわかりやすく説明することができる。 【ワークシート】〔7/8〕	クイズや景観写真等から佐賀市の大まかな特色を理解できる。 【発言内容】〔1/8〕 大和中学校校区内にもう1つ大型店舗をつくることの必要性、問題点などを理解することができる。 【ワークシート】〔4/8〕
B基準に達していない生徒への指導の手立て	他の生徒と話し合ってもよいことを伝える。 個別に指導をする。	グループでの話し合いを取り入れ、他生徒の発言を基に考えてよいことを助言する。 個別に指導をする。 どちらの立場を取るのか、また、なぜそう思うのか話し合う。	地形図の読み取り方を再度確認する。 資料の読み取り方について、具体的なアドバイスをする。 これまでの学習で使用したワークシートを再確認させる。	答えは言わず、ヒントを出す。 大和中学校校区内にもう1つ大型店舗をつくることの必要性、問題点などをまとめたワークシートを再確認させる。

5 単元の指導計画（計8時間）

学習テーマ	時数	学習活動	資料活用の技能表現や社会的な思考・判断力を高める手立て	評価する観点			
				1	2	3	4
大和町のある新しい佐賀市の特色を探してみよう	1 1/8	平成19年10月に誕生した佐賀市の特色を、景観写真や地形図、統計資料を通して、理解する。	プレゼンテーションソフトを使って身近な地域の写真を提示し、課題を意識させる内容とする。				
地形図をマスターしよう	2 2/8 3/8	縮尺の異なる地形図の比較、距離の計算などを通して地形図の見方を身に付ける。	2点間の方位と距離の求め方については例題を示し、定着するまで練習問題を繰り返し行う。				
もう1つ大型店舗をつくることの必要性、問題点についてまとめよう	1 4/8	もう1つ大型店舗をつくることの必要性、問題点を考察し、どちらの立場をとるのか自分の考えを書く。	生徒の思考を促すために参考となる資料データを準備し、グループでの話し合い活動も取り入れる。				
立場を決定し、討論の準備をしよう	2 本時 5/8 6/8	グループごとに分かれて、それぞれの立場の主張を考える。	立論や反論、再反論を考えさせるために、教師が準備した資料を与えたり、助言をする。				
討論を行い、それぞれの主張の評価をしよう	1 本時 7/8	討論を行い、それぞれの主張の評価をする。	それぞれの主張の評価をさせることで、討論会の流れを振り返らせる。				
<b>『中学校校区内に「大和ジャスコ」の他にもう1つ大型商業施設をつくるべきである』</b>							
最終的な自分の考えを文章に表して、この学習の振り返りをしよう	1 本時 8/8	自分の考えを文章で記述した2枚のワークシートを比べて、自分の見目が広がったことを実感する。	判断理由の中に反証や具体的な例を用いて記述させ、2つ並べて提示することで、自分の中で討論の価値付けをさせる。				

6 1 本時の学習指導（5・6 / 8）

(1) 本時の目標

討論に向けて立論や反論，再反論などの担当に分かれ，主張をまとめて準備をすることができる。

(2) 本時の評価規準

ア 討論に向けて立論や反論，再反論などの担当に分かれ，主張をまとめて準備をすることができる。

【社会的な思考・判断】

(3) 本時の展開

過程	学習活動	教師の指導・支援	評価（具体的評価規準とその評価方法）	
導入	(1) 前時の学習内容を振り返り，本時の学習の流れについて確認する。	討論について説明し，立論・反論・再反論の流れで討論を行うことを具体例を挙げて説明する。		
	立場を決定し，討論の準備をしよう。			
展開	(2) 討論の準備をする。	それぞれの立場で，立論・反論・再反論の役割のグループに分かれ話し合いながら考える。 立論や反論，再反論を考えさせるために，教師が準備した資料を与えたり，助言をする。	ア 討論に向けて立論や反論，再反論などの担当に分かれ，主張をまとめて準備をしているか。 【行動観察・ワークシート】	
	議論の流れ			
		立論	反論	再反論
	つくる側	量や種類が豊富になって，欲しいものが手に入りやすくなる。	・たくさんの商品を仕入れると，売れ残り，残った物が捨ててしまうとゴミになり，環境問題になる。	・割引して売ってある物もある。それでも売れ残ったら，リサイクルすればよい。
		欲しい物が手に入りやすくなることはよいことだから。	・たくさん物が買えて，無駄使いをする。	・目的がある人は目的のある物しか買わないので無駄使いしない。
	つくる側	働く場所が増えて，地元の人がたくさん採用される。	・正社員よりもパートやアルバイトが多い。給料も少ないので，生活が不安定になる。	・パートであっても働く場があるだけでもよい。働かないよりも働いてお金をもらった方がよい。
地元の人がたくさん採用されるのはよいことだから。		・個人の店がつぶれて仕事を失う人も出てきて，生活が苦しくなる。		
つからない側	客が大型商業施設に流れて，個人の商店がこまる。	・工夫して新しい商品を入れたり，お茶の末崎のように，大型商業施設の中にテナントとして入る店もある。	・伝統の店だったら，近くの人や買いに来る人がどこにあるのかわからなくなる。	
	個人の商店がこまるのはよくないことだから。			
つからない側	大和ジャスコと客の取り合いになって，2つとも客が減る。	・大和には高速道路のインターチェンジがあるので，県外からお客が来る。来た人は，個人の店に立ち寄ることもある。	・高速代やガソリン代もいる。時間をかけてまでわざわざ来ない。 ・県外から車で来た人は，駐車場がない個人の店には立ち寄らない。	
	2つとも客が減るのはよくないことだから。			
展望	(3) 次時の見通しをもつ。			

6 2 本時の学習指導（7 / 8）

(1) 本時の目標

討論を振り返り、それぞれの主張がどの程度成立しているのか、またどの程度重要、深刻な問題なのかを考えることができる。  
それぞれの立場からの考えを、資料分析を基に分かりやすく発表し、討論の記録をメモすることができる。

(2) 本時の評価規準

- ア 討論を振り返り、それぞれの主張がどの程度成立しているのか、またどの程度重要、深刻な問題なのかを判断し、評価することができる。【社会的な思考・判断】
- イ 資料分析を基に、自分たちの主張を分かりやすく説明し、討論の記録をメモすることができる。【資料活用の技能・表現】

(3) 本時の展開

選	学習活動	教師の指導・支援	評価（具体的評価規準とその評価方法）	
導入	(1) 本時の学習課題と学習の流れについて確認する。	本時の学習課題と学習の流れを説明する。		
	大和中学校区内に「大和ジャスコ」の他にもう1つ大型商業施設をつくるべきである。			
展開	(2) それぞれの立場から立論を行う。	立論は、メリット・デメリットを挙げて、根拠となる資料を説明させ、さらに理由付けの部分まで述べさせる。	イ 自分たちの主張を分かりやすく説明し、討論の記録をメモしているか。 【発言内容・ワークシート】	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>【つくる派の議論の構造】</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>量や種類が豊富になって、欲しい物が手に入りやすくなる</p> <p>↑</p> <p>きつくるべ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>働く場所が増えて、地元の人がたくさん採用される</p> <p>↑</p> <p>きつくるべ</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">欲しい物が手に入りやすくなることはよいことだから</p> <p style="text-align: center;">地元の人がたくさん採用されるのはよいことだから</p> <p><b>【つくらない派の議論の構造】</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>客が大型商業施設に流れて、個人の商店がこまる</p> <p>↑</p> <p>きつくるべ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>大和ジャスコと客を取り合い、2つとも客が減る</p> <p>↑</p> <p>きつくるべ</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">個人の商店がこまるのはよくないことだから</p> <p style="text-align: center;">2つとも客が減るのはよくないことだから</p> </div>			
展開	(3) 反論についてグループで話し合う。	<p>討論のフォーマットは以下の通りである。それぞれの時間を区切り、発言をさせる。作戦タイムに入る前に、それぞれの意見を整理し、反論、再反論の視点を与える。</p> <p>生徒の発言を板書し、出された意見が見える形に残す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>討論のフォーマット</p> <p>つくる側立論</p> <p>つくらない側立論</p> <p>～作戦タイム～</p> <p>つくらない側反論</p> <p>つくる側反論</p> <p>～作戦タイム～</p> <p>つくらない側再反論</p> <p>つくる側再反論</p> </div>	イ 自分たちの主張を分かりやすく説明し、討論の記録をメモしているか。 【発言内容・ワークシート】	
	(4) それぞれの立場からの反論を行う。			
	(5) 再反論についてグループで話し合う。			
(6) それぞれの立場から再反論を行う。			イ 自分たちの主張を分かりやすく説明し、討論の記録をメモしているか。 【発言内容・ワークシート】	
展望	(7) それぞれの主張の評価をする。	討論を振り返り、それぞれの主張がどの程度成立しているのか、またどの程度重要、深刻な問題なのかを考えさせる。	ア それぞれの主張がどの程度成立しているのか、またどの程度重要、深刻な問題なのかを判断し、評価しているか。	
	(8) 次時の見通しをもつ。	次時は討論を通して、最終的な意思決定を行い、その理由を文章で表すことを伝える。	【ワークシート】	

6 3 本時の学習指導（8 / 8）

(1) 本時の目標

討論で吟味したことを基に、自分が重要視した議論の流れ（主張から反論・再反論まで）や具体的な例を用いて最終的な自分の考えを文章で記述することができる。

前に書いた文章と、今書いた文章を見比べて、自分の書いた文章を振り返り、自分の考えが広がったことを実感することができる。

(2) 本時の評価規準

ア 討論で吟味したことを基に、自分が重要視した議論の流れ（主張から反論・再反論まで）や具体的な例を用いて最終的な自分の考えを文章で記述することができる。【社会的な思考・判断】

イ 前に書いた文章と、今書いた文章を見比べて、自分の書いた文章を振り返り、自分の考えが広がったことを実感することができる。【社会的な思考・判断】

(3) 本時の展開

過程	学習活動	教師の指導・支援	評価（具体的評価規準とその評価方法）
導入	(1) 前時の学習内容を振り返る。	黒板に前時の議論の流れを提示するとともに、生徒の手元にも議論の流れをまとめたワークシートを配布し、前時の学習を想起させる。	
	最終的な自分の考えを文章に表して、この学習の振り返りをしよう。		
展開	(2) 討論を踏まえて、最終的な自分の考えをまとめる。	討論での立場を離れて判断することを確認する。 それぞれの主張がどの程度成立しているのか、またどの程度重要、深刻な問題なのかを参考にすることを確認する。	ア 討論で吟味したことを基に、自分が重要視した議論の流れ（主張から反論・再反論まで）や具体的な例を用いて最終的な自分の考えを文章で記述しているか。 【ワークシート】 イ 前に書いた文章と、今書いた文章を見比べて、自分の書いた文章を振り返り、自分の考えが広がったことを実感しているか。 【発言内容・ワークシート】
	(3) 説得力のある文章の作り方について考える。	文章の構成の仕方を、具体例を示して説明し、参考にさせる。	
	(4) 最終的な自分の考えを文章で記述する。	自分が重要視した議論の流れ（主張から反論・再反論まで）に印をつけさせる。その際、具体的な例を出させるようにさせる。	
まとめ	(5) 前に書いた文章と、今書いた文章を見比べて、自分の書いた文章を振り返る。	振り返りをする中で、自分の考えを深めたり、大きく広げることができたことを実感させるような時間を取る。	
	(6) 単元全体のまとめをする。 (7) 次時の見通しをもつ。		